

## Unify VISION 5 - 6 (Unix 及び Linux 版) インストールガイド

### インストールの前に

- 本リリースをインストールし動作させるには、弊社発行のライセンスキーが必要になります。まず、本リリースに添付されている「ユーザ登録書(兼ライセンスキー発行依頼書)」に必要事項をご記入の上、FAXにて弊社までご返送下さい。折り返し、ライセンスキーを発行致します。
- 本リリースをインストールするには、下表に示すようなディスク容量が必要になります。インストールする前に、十分な空きディスク領域を確保するようお願い致します。

	AppBuilder	AppServer	Network Client	Object Broker
Solaris2.x	300MB	175MB	175MB	60MB
Linux	160MB	75MB	75MB	5MB

- X Window System X11R5 以上が必要です。
- 実メモリは、AppBuilder(開発システム版)では **32MB** 以上、AppServer(ランタイム版)では **24MB** 以上が必要です。
- VISION リリース 2 または 3 からアップグレードする場合は、必ず「Unify VISION: Migration Guide」マニュアルをご参照下さい。
- VISION リリース 2 からアップグレードする場合で、かつ.vision.vr ファイルの機能をカスタマイズしている場合は(例: カスタムクラスやカスタムコマンドを登録している)、現行の.vision.vr ファイルを削除しないで下さい。今回インストールされる VISION リリースを始めて起動した時に、この.vision.vr ファイルから全プリファレンス情報が取得され該当情報は.vision1.vr ファイルに格納されます。
- VISION リリース 3 以降のバージョンでは、\$HOME の.vision.vr および.vgalaxy.vr ファイルは使用されません。代わりに.vision1.vr および.vgalaxy1.vr ファイルが使用されます。これらのファイルは、リリース 2 以前の物とリリース 3 以降の物では互換性がありません。

### Unify VISION のインストール

次の手順にしたがってインストール作業を行ってください。システムのスーパーユーザで作業を行ないます。もし、ご不明な点がございましたら、お買い上げいただいた代理店もしくは Unify Japan サポートセンタまでご連絡下さい。

ここでは、CD-ROM をマウントし、そのマウントした CD-ROM のリリースのディレクトリから直接インストールプログラム(install/install)を実行します。

その後は、インストーラのガイドにしたがって、インストールを行って下さい。

1. インストール・ユーティリティ実行の為に **umask** を **000** に設定します。

```
# umask 000
```

```
# umask
000
```

2. CD-ROM をファイルシステムにマウントします。

CD-ROM のマウントの方法については、システムにより異なりますので、各システムのマニュアルをご参照下さい。

3. マウントした CD-ROM のディレクトリにカレントディレクトリを移動します。

```
# cd /cdrom
# pwd
/cdrom
```

(注)ここで使用している"/cdrom"というディレクトリ名は、あくまでも一例です。

4. ls コマンドでファイルのリストを確認すると、リリースのリストが表示されます。Solaris2.x オペレーティングシステム上では、ボリューム名が表示されますので、そのボリュームにカレントディレクトリを移動すると、リリースのディレクトリになります。

<<Solaris2.x 以外の場合>>

```
# ls
AppBuilder/          AppServer/          UORB/          install/
```

<<Solaris2.x の場合>>

```
# ls
cdrom0/              unify_vision_x_xx
```

(注)但し、"x\_xx"にはバージョンが入ります。

```
# cd unify_vision_x_xx
# pwd
# /cdrom/unify_vision_x_xx
# ls
cdrom0/              unify_vision_x_xx
```

(上記の状態、リリースのディレクトリがカレントディレクトリとなりました。)

5. LD\_LIBRARY\_PATH 環境変数に X11 ライブラリのパスが含まれていることを確認して下さい。システムによっては設定すべき環境変数が異なる場合がありますので御注意下さい。
6. インストール・ユーティリティを実行します。

```
# install/install
```

7. インストール・ユーティリティは、CD-ROM からのインストールであるかを聞いてきます。"y"と答えます。

```
Is the installation media type CD-ROM (y/n)? : y
```

8. リリースをインストールするディレクトリ名を入力します。

```
Enter the Unify VISION release directory: /home/VISION
```

(注)下記のディレクトリには、VISION をインストールしないで下さい。

```
/          /bin          /lib          /etc
```

```
/usr/usr/bin      /usr/lib
```

9. 入力したディレクトリが存在しない場合、ディレクトリを作成するかを聞いてきます。ディレクトリ名に間違いがないときは、“y”と答えます。

```
Installation directory: /home/VISION does not exist.
```

```
Enter 'y' to create the directory, 'n' to exit installation: y
```

10. 次のメニューが表示されます。今回インストールするプロダクトのナンバーを入力します。  
(ご購入のプロダクトをお選び下さい。)

```
Select a product to install from the following choices:
```

- ```
1) Install AppBuilder.
2) Install AppServer.
3) Install Network Client.
4) Install Unify Object Broker.
5) Terminate Installation.
```

```
Selection:
```

11. インストール・ユーティリティが次のプロンプトを表示するとき、オンライン・ヘルプを使用するかどうかを示します。

```
Some preferences need to be added to the .Xdefaults
file to set your default colors for the help system.
Without the settings in this file the help system is
sometimes illegible.
```

```
Set the .Xdefaults for using help system default colors (y/n)?:
```

もし、“y”と答えると、インストール・ユーティリティは、ホームディレクトリの.Xdefaults ファイルへ、\$VISION\_HOME/hhhelp/app-defaults ファイルの内容を追記します。そして、インストール・ログファイルにその情報を記録します。.Xdefaults ファイルは、ヘルプ・システムのためのデフォルトカラーを設定します。そのため、ヘルプ・システムの表示画面が読みやすくなります。

12. CD-ROM より、リリースがコピーされます。

```
Copying <Unify Product> component.....
```

(注)<Unify Product>には、ステップ 10 で選んだプロダクト名が表示されます。

13. リリースのコピーが終了すると、Unify VISION のインストールレーションが開始します。

```
Verifying system utilities...
```

```
Complete.
```

14. 次のメッセージが表示されます。<return>キーを入力します。

```
Press <return> to begin installation, or 'x' to exit [<return>]:
```

15. 次のメッセージが表示されます。もう一度<return>キーを入力します。

```
Press <return> to continue installation, or 'x' to exit [<return>]:
```

16. 次のメッセージが表示されます。ここではライセンスキーの入力方法を選択することができます。

```
A licensing key has not been entered in the file "install/license.key".
```

Select one of the following licensing options:

- 1) Enter license key now.
- 2) Continue installation and license the release later.
- 3) Terminate installation.

Selection:

- 1 を選択するとライセンスキーを入力するよう求めてきますので、キーボードより入力して下さい。

Enter your license key ('sh' for shell, 'x' to exit):

17. ライセンスキーを入力すると、確認のメッセージが表示されますので、"y"を入力して下さい。

License key entered: xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

Use? (y/[n])

18. 以上でインストールは終了です。インストール中に表示されたメッセージはすべてリリースディレクトリの `installmsg` ファイルに記録されています。インストール中に問題が発生した場合は同ファイルを Unify Japan サポートセンタまでお知らせ下さい。

19. `diag/prlcnf` コーティリティを使用して、正しくライセンスが埋め込まれていることをご確認下さい。

```
#diag/prlcnf bin/vision (出力は一例です)
custid = xxxxxx
hostcd = xxxxxxxxxxxxxx
max usr = 99
current time          = 10-30-1999
installation date     = 10-30-1999
expiration data      = 12-31-2020
executable capabilities:
  Accell/SQL          is NOT allowed
  Unify VISION        is allowed
  Developmem          is allowed
  VISION Application Server is NOT allowed
```

なお、さらに詳しいインストールに関する情報は、オンライン・マニュアル・コレクションに含まれる『Unify VISION: Installation Guide for UNIX』(英語版)をご参照下さい。

以上